

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和6年度報告)

沖縄県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

沖縄県における被害防止計画を作成した市町村数は27で、その計画数は、沖縄本島南部7市町村と沖縄本島北部9市町村それぞれにおいて構成する協議会が作成した計画が2つと市町村が単独で作成した計画が21あるため、合計で23である(令和6年9月末現在)。そのうち目標年度を令和5年度に設定しているのは、4市町村(伊是名村、座間味村、北大東村、石垣市)である。沖縄本島南部地区7市町村はシロガシラによる露地野菜の被害防止対策が共通課題であるため、沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会においてシロガシラを対象鳥獣とした被害防止計画を作成している。また北部地区9市町村においても、平成26年5月に「沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会」を立ち上げ、ハシブトガラスによる農作物への被害軽減を目的に、被害防止計画を作成している。その他地域については、加害鳥獣や栽培作物が異なるため、市町村単独で被害防止計画を作成している。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

事業を実施している伊是名村、座間味村、北大東村、石垣市の市町村においては、対象鳥獣の捕獲許可権限委譲を受け、市町村長の許可により、有害鳥獣の捕獲等を行った。猟友会を含めた鳥獣被害対策実施隊を設置し、銃器や箱わなによる駆除を行うなど、効率的な体制により速やかに有害捕獲活動に取り組んだ。また、担い手育成を兼ね狩猟免許取得等の人材育成、今後の被害防止に向けた取り組みも行った。石垣市有害鳥獣対策協議会では、ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組として、捕獲した鳥獣の処理加工等に関する研修会等、販売拡大支援を行った。沖縄本島北部地域及び八重山地域においては、イノシシによる農作物への被害が多発しており、被害が多いほ場を中心に侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を整備した。被害防止の効果は大きく、受益ほ場については被害が無くなったが、未整備のほ場を中心に依然として被害が発生していることから、被害状況を確認し、引き続き、被害防止に有効な整備をしていく。併せて、イノシシを寄せ付けない対策(ほ場の残渣物の管理、ほ場周辺の環境整備)にも取り組む必要がある。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。

推進事業においては、伊是名村有害鳥獣被害防止対策協議会、座間味村有害鳥獣対策協議会、北大東村有害鳥獣対策推進協議会、石垣市有害鳥獣対策協議会が、有害捕獲を中心に取り組んだ。半数の協議会が目標達成に至ったが、鳥獣類の生息数の増加等の要因もあり、一部は目標未達成となった。整備事業においては、石垣市有害鳥獣対策協議会がイノシシのワイヤーメッシュ柵を整備した(R3・4・5)。整備した被害防止施設の効果は大きく、受益ほ場については被害が無くなったものの、未整備ほ場を中心に依然として被害が発生していることもあり、目標達成とはならなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価			
										被害金額			被害面積								
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率						
沖縄県	沖縄県全域	R5	ハシブトガラス、クジャク、シロガシラ	新技術実証・普及活動	4,660,000円 ・鳥獣被害防止展示ほの設置 ・シロガシラ、ハシブトガラスの生息調査(沖縄本島南部地区)	-	-	-	<p>【鳥獣被害防止展示ほの設置】</p> <p>低コスト防鳥施設等の資材を使った実証ほ設置による効果の検証を行い、効果的かつ低コストな対策指導の基礎資料とすることができた。</p> <p>北部地区(名護市)で実施した展示ほについては、シロガシラの追い払いを目的とした防鳥テープ設置の実証を行った。防鳥ネットよりも簡易かつ低コストで設置でき、作業性も格段に良く、保管についても省力化できる等、生産者が取り組みやすいことから、被害防止効果の向上が期待できるとわかった。</p> <p>また、八重山地区で実施した展示ほ2件(石垣市大川、竹富町南風見)を実施した。石垣市大川で実施した展示ほにおいては、イノシシのかんしょ畑への侵入防止を目的とした防風ネット柵の設置を行った。イノシシによる被害は見られず、イノシシ対策に有効な被害防止方法であると考えられる。電気柵と違い電気の効果がなくなるが、防風ネット柵の場合は設置後の管理が特に必要ないため、設置作業以外は労働負担が少ない特徴がある。また今回は2ミリネットを用いたが、目の粗い防風ネットを用いればさらに安価で設置が可能になり、普及の可能性が見込まれる。</p> <p>竹富町南風見で実施した展示ほは、電気柵(ソーラー充電器式)の設置によるかぼちゃ栽培のイノシシ被害軽減効果の検討を行った。実施期間中、ほ場周囲では頻繁にイノシシの足跡や姿が確認され、約20mlに渡り、ワイヤー直下まで掘り起こされた跡が見られたこともあったが、収穫時までカボチャの被害は確認されなかった。</p> <p>【シロガシラ、ハシブトガラスの生息調査(沖縄本島南部地区)】</p> <p>効果的な被害防止対策を講じる為、沖縄本島南部地区におけるハシブトガラス、シロガシラの生息調査を行った。</p> <p>行動パターンや詳細な生息地域などを把握できたことにより、効率的な被害対策の計画につながる。</p>	-	-	-	-	-	-	<p>今回の実証ほ設置により効果的かつ低コストな対策指導の基礎資料とすることができたので、鳥獣被害軽減対策指導として普及していきたい。</p> <p>沖縄県における野生鳥獣による被害は、平成30年度に84,998千円に増加したが、それ以降、令和2年度が77,502千円、令和5年度が75,040千円と減少傾向にある。</p> <p>引き続き有害捕獲活動を実施し、侵入防止柵等の整備や、地域のニーズに合わせた被害防止対策の普及推進により、さらに被害軽減を図っていく。</p>	-	-			
今帰仁村有害鳥獣対策協議会	今帰仁村	R2	シロガシラ マンゲース	推進事業・緊急捕獲活動支援事業 ②有害捕獲	R2 714,955円 ・被害発生状況調査 ・箱わなによる駆除(マンゲース)	今帰仁村有害鳥獣対策協議会	R2	100%	<p>今帰仁村有害鳥獣対策協議会では、平成20年度から本事業を実施して、カラス、シロガシラの捕獲箱の導入や銃器による捕獲活動を行っている。平成23年度からは、新たにマンゲースを対象鳥獣として追加し、捕獲器を使った駆除を開始した。</p> <p>令和2年度から令和5年度までの4年間の捕獲数でマンゲースは1,862頭であった。シロガシラは令和2年度に5羽を捕獲してから捕獲実績はない。令和5年度は、近年の個体の確認件数は大きく減少してはいないが、被害報告がなく達成率は100%となっており、目標が達成できている。</p> <p>前年度も一部の農家の被害報告となっていたが、今年度は被害報告がなかった。</p>	388千円	0円	500%	-	-	-	<p>令和2年度から令和5年度までの4年間の捕獲数でマンゲースは1,862頭であった。シロガシラは令和2年度に5羽を捕獲してから捕獲実績はない。令和5年度は、近年の個体の確認件数は大きく減少してはいないが、被害報告がなく達成率は100%となっており、目標が達成できている。</p> <p>前年度も一部の農家の被害報告となっていたが、今年度は被害報告がなかった。</p>	<p>令和2年度から令和5年度までの4年間の捕獲数でマンゲースは1,862頭であった。シロガシラは令和2年度に5羽を捕獲してから捕獲実績はない。令和5年度は、近年の個体の確認件数は大きく減少してはいないが、被害報告がなく達成率は100%となっており、目標が達成できている。</p> <p>前年度も一部の農家の被害報告となっていたが、今年度は被害報告がなかった。</p>	<p>実施した事業内容を見るとR2,R3,R4,R5年度はマンゲースの箱わなによる駆除事業で稼働率は100%となっている。被害金額は目標値の388,080円に対し実績値が0円であり、被害実績値に達していないがマンゲースの捕獲が4年間1,862頭捕獲されている状況からすると、被害額が0となっているのは被害が減少しているが農家の届け出がなかったためと考えられるため、もう少し詳細に分析する必要があると思われる。シロガシラは令和2年度に5羽捕獲後、捕獲実績はないことから被害はなかった可能性もあるが、捕獲量の管理状況(新鮮な餌を提供していない、放置されている等)を農家へのヒアリング等で確認しておく必要があると思われる。管理が適切で捕獲実績がなければ対象をシロガシラ以外に変更することを検討することが望ましい。被害報告がなく達成率は500%となっていることから、対策の成果が上がっているものと評価される。(沖縄環境経済研究所:上原)</p>	<p>令和4年度事業評価において、目標未達だったが、令和5年度事業評価では、マンゲースによる被害額が0円と大幅減少し、目標達成となった。</p> <p>協議会においては、箱わなによる駆除活動などの取組を実施しており、マンゲース捕獲頭数が増加し、その成果として、被害額の大幅減少につながり、事業効果があつたものと評価できる。</p> <p>今後も引き続き、箱わな等活用するとともに、効率的な対策検討及び活動を継続していく必要がある。</p>		
		R3			R3 584,992円 ・被害発生状況調査 ・箱わなによる駆除(マンゲース)															R3	100%
		R4			R4 453,904円 ・被害発生状況調査 ・箱わなによる駆除(マンゲース)															R4	100%
		R5			R5 402,000円 ・箱わなによる駆除(マンゲース)															R5	100%

名護市鳥獣被害対策協議会	名護市	R2	イノシシ	推進事業・緊急捕獲活動支援事業 ①鳥獣被害防止施設（侵入防止柵の設置）	R2	791千円	4,762千円	0% (-4,413%)	0.15ha	1.81ha	0% (-8,200%)	イノシシにおいては、標準年（令和5年度）の被害面積0.17ha、被害金額879千円に対し令和5年度の被害面積1.81ha、被害金額4,762千円となっており、達成率は、被害面積△4.413%、被害金額△8,200%となっており、被害面積、被害金額についての改善が必要である。原因としては、イノシシの増加とイノシシの侵入防止柵の整備を行っていない圃場への被害の増加が問題である。今後は被害が大きい地域の対策強化を図りたい。	久志地区ではイノシシ等による、さとうきび、パイン、かぼちゃ等の農作物の食被害があり、令和5年度に関してはイノシシとコウモリによる中晩柑類（シークワサー、タンカン）の被害が特に多かった。これまでも被害防止の対策を行ってきましたが、被害の大きな圃場では作付をやめる農家も多かった。平成26年度よりイノシシの侵入防止柵の設置により、設置された圃場では被害減少により収穫量の増加はもちろんのこと、受益農家の営農意欲にもつながっており。今後の課題としては、高齢による離農者も多く、地域によっては同じ地区で農家3戸以上の申請が必要な設置基準の達成が難しいため、隣接する地区にて3戸以上や1農家でも設置が可能な制度の確立が必要だと思います。 (名護市・農業委員 比嘉 清隆)	侵入防止柵の設置及び銃器による捕獲活動を継続的に実施しているが、被害金額が目標未達成となった。特に、イノシシによる被害の面積の増加が著しいので、受益農家の整理を行い、侵入防止柵の整備を早急に増加させる必要がある。
		R3			R3	100%								
		R4			R4	100%								
		R5			R5	100%								
伊是名村有害鳥獣被害対策協議会	伊是名村	R3	コウライキジ	推進事業・有害捕獲	R3	810千円	845千円	61%	0.9ha	0.26ha	740%	銃器による捕獲や卵の採取活動により、コウライキジの個体数は減少してきているが、繁殖力が強いことや銃器による捕獲が困難な森林に生息していることから継続して捕獲活動を実施する必要がある。	伊是名村では、コウライキジの農作物への被害に対して大変苦慮していましたが、実施隊の銃器による捕獲や卵の採取で、コウライキジの被害は減少しており、農家の生産意欲は向上しています。今後も同様の被害防止対策を継続的に実践していく必要があります。また、実施隊の年齢層が高めなので、今後の活動を継続するためにも、人員の確保に努めて頂ければと思います。 (沖縄県農業協同組合伊是名支店 園芸部会 会長 神山勇太郎)	コウライキジにおいては被害面積が減少し、捕獲頭数を見ると事業の効果を感じられるが、被害金額において目標を達成できていない。被害状況を改めて確認し、農作物への影響の軽減に向け、効率的な対策検討及び活動に務めていく必要がある。
		R4			R4	100%								
		R5			R5	100%								

座間味村有害鳥獣対策協議会	座間味村	R3	イノシシ、ハシブトカラス	推進事業・有害捕獲	R3	座間味村有害鳥獣対策協議会	100%	令和3年度から令和5年度まで有害捕獲を中心に事業を行い、イノシシ、ハシブトカラスからの被害防止に効果が見られた。特にイノシシについては外来種であるためより積極的に捕獲活動を行い、農作物被害はゼロにできた。 ハシブトカラスについては村内での生息数に左右される部分があり、駆除を行っても新規個体の加入が多い事が懸念される。 令和5年度において、被害は0であったが、個体数が増えたと被害の発生が懸念される。 基準年度(令和3年度)被害面積の現状値が2ha、目標値が1haに対して、実績値はイノシシ、カラス、の2種の対象鳥獣で被害面積0haとなり、目標値を達成できた。	-	-	-	イノシシ 0ha	イノシシ 0ha	イノシシ 508%	イノシシについては、沖縄県主体の「指定管理鳥獣捕獲事業」での捕獲実績が大きく、連携することで成果が出ている。 カラスについては捕獲や追い払いにより成果が得られている。しかしながら、捕獲を下げることによって個体数が回復し被害の再発が懸念されるため、捕獲活動は継続して行わなければならない。	農作物被害は減っている印象を受けるが、門扉の閉め忘れにより時々被害が発生している。 (座間味村農業委員会会長 西田吉之介) イノシシについては令和2年度までは被害があったが、捕獲を本格的に行った後からは被害はない。 カラスについては、駆除を行っているのは、知っていますが、数が減ったようには感じない。果実等の被害があり、駆除の継続をお願いしたい。 (地元農家 宮里早苗)	実施隊による有害捕獲活動を実施した結果、目標達成となった。 イノシシ、ハシブトカラスの被害面積が0と目標達成ではあるが、現在も目撃情報等が寄せられており、農作物への被害を及ぼすことが考えられる為、捕獲活動等の対策を継続していく必要がある。 また、座間味諸島におけるイノシシの根絶を目指して取組を強化している指定管理鳥獣捕獲等事業とも連携をする。	
		R4			R4													100%
		R5			R5													100%
北大東村有害鳥獣対策推進協議会	北大東村	R3	ニホンキジ	推進事業・有害捕獲	R3	北大東村有害鳥獣対策推進協議会	100%	事業のおかげで島民に駆除の必要性が伝わり、農家から狩猟メンバーが加わるなど、今後事業を活用し駆除活動が本島から猟友会を呼ばなくても島民で駆除出来るようにしたい。 被害面積・被害金額とも未達成となっている。今後はニホンキジ被害が多い地域・駆除がやりやすい時期を中心に被害対策を実施していくことで改善を図りたい。	2,520千円	4,413千円	0% (-75%)	0.91ha	1.30ha	0% (-122%)	ニホンキジにおいて、基準年の被害面積130a、被害金額3,600,000円に対し令和5年度の被害面積130a、被害金額4,413,000円となっており、被害面積・被害金額とも達成率は0% (被害金額マイナス)改善が必要である。 原因としては、駆除する数がキジの増える数に追いついていない。今後駆除する(猟友会を呼ぶ)回数を増やし島内のメンバー育成も兼ねキジ絶滅できるよう対策強化を図りたい。	島の産業サトウキビ農家には被害はなく、カボチャ・馬鈴薯農家に被害がある。駆除にはやはり5月～6月製糖期が終わってすぐしたほうが良い。なるべく根絶できるように継続的に続けて欲しい。 (農業委員 仲村 卓也)	ニホンキジにおいては、捕獲頭数を見ると事業の効果を感じられるが、被害金額において目標を達成できていない。 被害状況を改めて確認し、農作物への影響の軽減に向け、効率的な対策検討及び活動に務めていく必要がある。	
		R4			R4													100%
		R5			R5													100%
石垣市有害鳥獣対策協議会	石垣市	R3	ハシブトカラス イノシシ コウライキジ インドクジャク カモ類	推進事業 ①有害捕獲 ②ジビエ利用拡大に向けた取り組み 整備事業 ①鳥獣被害防止施設(侵入防止柵の設置)	R3	石垣市有害鳥獣対策協議会	100%	石垣市有害鳥獣対策協議会での推進事業では、令和3.4年度は鳥類(キジ、クジャク)の一斉駆除活動をしており、令和3年度は3回実施で113羽、令和4年度は2回実施で66羽の捕獲実績となっております。令和4.5年度はジビエ活用に向けた取り組みとして研修にも参加しております。また、令和5年度は鳥獣被害対策実施隊員を増やし捕獲者の増加を図る為、狩猟免許取得支援も行っており、支援した14名についても石垣市鳥獣被害対策実施隊へも加入しております。 整備事業については、イノシシ侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵)を設置しており、令和3年度は5農家9カ所3,510m、令和4年度は8農家13カ所4,608m、令和5年度は13農家37カ所10,128mを整備しております。 防止柵を設置することで農作物の被害を防ぐだけでなく、ワナによる効果的な捕獲も期待できます。 目標達成状況としては半分程度になっているが、上記理由も要因の一つと考えられる。いずれにせよ、イノシシ侵入防止柵を設置した圃場からの被害報告は無いこと、農家含め捕獲者の増加による自衛意識も高まっているため、鳥獣被害防止総合支援事業は十分成果が上がっているものと評価できる。 現在でもまだ、キジ、クジャク、カラス、イノシシの被害報告はあるので、引き続き地域・農業者と連携しながら継続して対策を講じることが課題である。	2,639千円	6,707千円	0% (-518%)	2.07ha	2.67ha	0% (-15.3%)	鳥獣被害全体で見ると、令和元年度被害額が約330万円、被害依頼件数70件に対し、令和5年度被害額が670万円、被害依頼件数133件で倍近く増えており、達成率も半分程度となっている。ただ、これまでの対策の効果が無いとは考えにくく、これまで被害があっても報告しなかった農家による報告が増えていたことも増加した要因であると考えられる。 石垣市の害獣は、異なった防除対策が必要となる鳥類と獣類とによってもたらされています。石垣市有害鳥獣対策協議会では、捕獲駆除を基本とした防除が重要となる鳥類について定期的に一斉駆除活動を実施されています。また、イノシシについては、ワイヤーメッシュ柵設置によって防除する農地の面積を増やしつづつワナによる捕獲を実施されています。これらの対応は、獣害低減に向けた根本的なものであり、地域全体で結果の出る問題解決に取り組まれていることが伺われます。 今後は、被害の多い地域の場所や発生頻度等の情報を皆さんで共有して獣害低減対策を展開し、増加するワイヤーメッシュ柵の点検・保守作業も実施していただくことで既設施設の効果を維持できると考えられます。 近年は、捕獲鳥獣のジビエとしての有効活用も検討されておられ積極性を感じますが、これは捕獲獣の商品化であることから、定量生産商品ではなく期間限定の少量生産商品として考えられるとスムーズに進められるかと思えます。 (農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 矢尾田清幸氏(沖縄県土地改良事業団体連合会))	侵入防止柵の設置及び銃器による捕獲活動を継続的に実施しているが、被害金額が目標未達成となった。 特に、イノシシによる被害の面積の増加が著しいので、受益農家の整理を行い、侵入防止柵の整備を早急に増加させる必要がある。		
		R4			R4												100%	
		R5			R5												100%	

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

## 5 都道府県による総合的評価

被害防止計画において令和5年度を目標年度に設定している市町村及び広域協議会のうち、鳥獣被害防止総合対策交付金を実施している伊是名村有害鳥獣被害対策協議会、座間味村有害鳥獣対策協議会、北大東村有害鳥獣対策推進協議会、石垣市有害鳥獣対策協議会の4カ所に、昨年度目標が未達成であった今帰仁村有害鳥獣対策協議会、名護市鳥獣被害対策協議会を加え計6カ所が評価対象となっている。

名護市鳥獣被害対策協議会、北大東村有害鳥獣対策推進協議会、石垣市有害鳥獣対策協議会が目標達成に至らなかったことから、改善計画の策定協議を行い、被害防止対策を推進していく必要がある。

目標達成にはならなかったものの、すべての地区において事業計画に基づいて鋭意努力し取り組んでおり、被害の大きいハシブトカラスについては有害捕獲の取組を行えば被害を減らしていくことが可能であり、また、イノシシについては、侵入防止柵未整備の圃場で被害が出てしまったが、整備を行った圃場の被害抑制効果は大きいと考えられ、今後も本事業の継続的な実施が重要と考える。

沖縄県全体の被害金額は、平成24年度の2億1千万円をピークに徐々に減少傾向となっており、令和5年度においては75,040千円となっている。よって、本事業の取組等による、被害抑制効果は十分にあったと考えられることから、現在の取組を継続して行っている事が重要だと考える。

地域により対象鳥獣や被害状況、課題が異なる為、それぞれニーズにあった対策を進め今後もサポートしていく。より効果的な被害防止対策の実施方法を検討し、被害状況調査による被害実態を踏まえた上で被害防止計画を策定、さらなる被害軽減につなげていくよう努めていく必要がある。